

森林の 施業・管理

森林の土壌も温暖化防止に貢献

～ 森林土壌の炭素量推定 ～

研究の背景・目的

地球温暖化は世界的な問題となっています。平成9年に採択された京都議定書では各国の温室効果ガスの削減目標が定められ、森林も炭素の吸収源であると認められました。その後、森林が吸収した炭素量を国際指針に基づいて算定、報告することが合意されました。

本研究はこの算定、報告に必要な森林の土壌、落ち葉や枯れ木の炭素の動きを全国の研究機関と連携して調査し、森林土壌の炭素吸収量を推定する基礎資料とします。

研究方法

1) 調査地(5年間) 島根県内：64か所(年平均13か所) 全国：3,140か所

2) 調査内容・手順

①土壌の調査：土壌の断面などを記録し、一部を分析用に採取。

②落葉などの調査：落ち葉や枯れ枝の状態を記録し、一部を分析用に採取。

③枯れ木の調査：枯れ木の本数や腐れの程度を調査。



土壌調査の状況



容積重の測定



炭素分析の様子

研究状況(平成21年度末現在)

調査の進行状況は次のとおりです。

調査終了

平成18年度 14か所

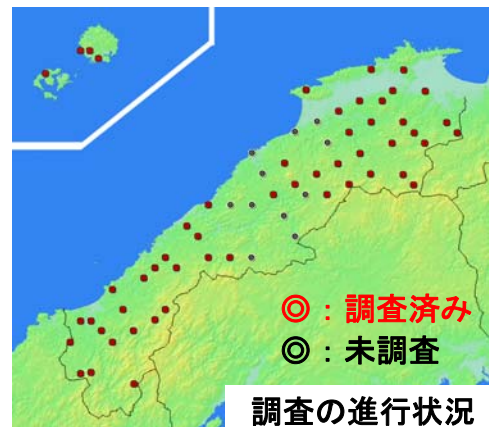
平成19年度 14か所

平成20年度 13か所

平成21年度 12か所

調査予定

平成22年度 11か所



研究成果の活用

この研究によって、本県の森林土壌に含まれる炭素量が明らかになります。そしてこの結果は、我が国の温室効果ガス削減対策に活用されます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ：森林保護育成グループ

担当研究者：山中 啓介(やまなか けいすけ)

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3820

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：森林吸収源インベントリ情報整備事業 (研究期間：H18～22)